

視聴覚教育

NO. 387

発行日

24. 11. 30

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

視視聴覚用語

『LINE (ライン)』

スマートフォンなどで使えるアプリケーション。ユーザー数は世界で六千万人を超えた。インストールしている者同士、無料で通話やチャットを利用することができる。また、複数でのグループ通話にも対応している。

ICTで授業改革

現職研修委員会学習情報部長 丸尾 光司

全ての子供が、一人一台のタブレットPCを道具として自在に扱い、互いに生き生きと学び合う。そんな未来の授業が、すでに日本のあちこちで始まっています。平成二十四年十月二十三日、総務省による「フューチャースクール推進事業」の実証研究発表が、大府市立東山小学校で行われました。「協働教育を柱とした授業改革。そこにICTは、価値ある道具として生かされ、確かに活用されていました。」

さて、岡崎市では50インチの大型ディスプレイとノートパソコンが全普通教室に導入されて、三年が過ぎようとしています。近隣の市町村にはない、恵まれたICT環境にある私たち。求められるのは、その有効活用です。

過日、本校で行われた研究授業では、子供が考えを深めていく場面でICTが有効に活用されていました。その場面を一部紹介しましょう。「常南学区の大好き(場所・人・もの)」を見つめるために、学区探検をした二年生。見つけた「大好き」を友達に紹介するために、デジタルカメラで撮影をしてきました。本時は、その画

像をもとにして展開していきます。導入で、先生は大型ディスプレイにいくつかの画像を提示しました。「私もここに行ったよ」「見た、見た!」いくつかの画像をもとに、子供たちは昨日のように探検の記憶を呼び起こしていきます。「僕は、もつと違うこと見つけたよ」一人の子供のつぶやき。それをきっかけにして、せきを切ったように教室は挙手で溢れました。

子供たちは、自分で撮影した画像を提示しながら発表します。画像には、その子が伝えたい思いが、パソコンの「ペイント機能」を使って描き加えられていました。「車がたくさん通るので横断歩道がほしい」という意見が添えられた画像を見た他の子供からも「あぶないよね」という意見が続きました。一枚の画像から意見交流が始まり、思いをぶつけ合うことで、いつの間にか全員が学区をよくしていく方法を考えるようになっていました。

求められている授業改革。これまでの教師主導型の一斉授業を打開し、子供たち自身がお互いに学び合い高め合う授業形態への転換。そのための道具として、ICTは絶大な効果をもたらすに違いありません。私たちのふだんの授業のあり方を、今、見つめ直す時期に来ています。

II 視聴覚教育あれこれ II

● 情報モラル教育の指導の徹底を!

昨年引き続き、今年五月にも不正アクセス禁止法違反の疑いで県内の中学生が愛知県警に摘発された。県警によると、この中学生は友人やサイト上で知り合った利用者のIDやパスワードを聞き出し、他人のキャラクターを無断で操作していた。「友人のキャラクターを乗っ取り、仮想通貨を使ってアイテムを買いたかった」と話しているという。

愛知県に限らず、全国的に未成年の子供が不正アクセスで補導される事件が起きている。「摘発されるまで、犯罪という認識を持っていない子供が多い。放置すれば、将来のネット利用者としてのモラルに大きな悪影響を及ぼす可能性がある」と警察は指摘している。

子供たちがインターネットサイトで不正アクセスを犯したり、またネット犯罪に巻き込まれたりしないために、学校で情報モラルを取り上げることは重要である。

携帯電話の所持率増加やスマートフォンの普及により、ますます子供たちは情報社会の渦に巻き込まれていく。その前に情報社会のルールを身につけさせることは、教師の責務である。まずは教師自身が知識を深め、子供に情報モラルに関する知識と知恵を伝えてほしい。



実践報告 II

相手の気持ちを考えて情報を正しく使おう

美合小学校 三浦 良見

現代の子供は、様々な情報機器を使って家族や友達とのコミュニケーションをとっている。特にメールでのやり取りは、今後、子供のコミュニケーション手段として多く登場してくるであろう。そこで、本校の三年生が、相手に誤解を与えずに確実に意思疎通をするメールの内容を考ええた。

まず、例文として「おかしい」という言葉の意味をどのようにとらえるかを考えた。同じ言葉であっても、相手によって意味のとりえ方に違いがあることを学んだ。

次に、「事例で学ぶNetモラル」の番組「文字だけでつたえるたのしさやむずかしさ」を視聴した。すると子供は「『いいよ』という言葉には、二つの意味があるから、メールの文面だけではどちらの意味か分からない」ときに気付いた。そこで、どのようなメールを送れば正確に伝わるのかを考ええた。子供は、相手の気持ちを推測しながら、どのようなメールの文面にしようかと一生懸命に考えていた。本授業を通して、相手の立場を考えながら、意思疎通することの難しさを学ぶことができた。



II レッツ・トライ II

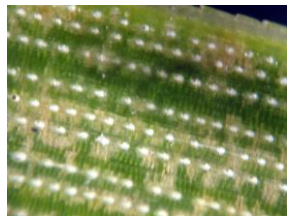
デジカメを使った顕微鏡の画像撮影

顕微鏡で観察した画像を子供に見せたいとき、顕微鏡投影装置を使ってテレビ画面に映すのは大変な手間である。特に、たくさんの種類を提示したいときは、いちいちプレパラートを入れ替えなければならぬ。

そこで、デジカメを使って顕微鏡の画像を撮影することを提案する。デジカメのレンズを顕微鏡の接眼レンズに固定するだけで、簡単に撮影することができる。デジカメが複数用意でき、撮り方を教えることさえできれば、子供でも十分に撮影することができる。

デジカメで撮影した画像は、顕微鏡投影装置よりも色合いが美しくなる。その上、ズームも利くのでポイントを押さえた画像を写すことができる。また、パソコンと組み合わせれば、スライドショーでたくさん画像を簡単に提示することもできる。さらに、撮影したものを保存して残しておけば、常に使用可能な教材となる。ぜひ、試していただきたい。

(北中学校 学習情報主任 太田尚志)



生徒が撮影したマツの葉の気孔



ライブラリーだより

●教材をご利用ください

ライブラリーではたくさんの方の貸し出し用ビデオ、DVD教材を整備しています。昨年度も、新たに九十本を超える教材を購入しました。一例として、
○地震防災の教材（「地震への備えが命を守る」
↳緊急地震速報の音声の流れたら...」他）
○薬物乱用防止の教材（「薬物乱用と薬物依存 脳をダメにする薬物」他）
○語学教材（「4カ国語を学ぶバイリンガル知育ソフット」世界名作童話集）

第1巻 トムソーヤの冒険」他）
○「DVDネイチャーシリーズ 野生の王国 トキよ舞いあがれ」巣立ちの記録」
などがあります。年度初めに配布された「視聴覚教材・機器利用の手引」に教材の一覧が掲載されていますし、インターネットでも検索が可能です。ぜひご利用ください。

●第十回ふるさと岡崎

メディアコンクールのお知らせ

「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品を募集中です。お手元に自作教材や児童・生徒の作品がある方は、ぜひ応募してみてください。自作教材が手元のない方は、この機会に作品作りに取り組んでみてはいかがでしょうか。
締切は12月7日（金）です。詳しい要項は各学校に配布されています。学習情報主任の先生にお尋ねください。また、ライブラリーのHPにも掲載されています。
多くの方のご応募をお待ちしております。

